

子宮内膜菲薄化症例に対する Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry (PFC-FD)
療法の検討

辻 尚也¹⁾ 小西 晴久¹⁾ 藤原 奨¹⁾ 門上 大祐¹⁾ 森本 真晴¹⁾ 勝 佳奈子¹⁾
中岡 義晴¹⁾ 森本 義晴²⁾

¹⁾ IVF なんばクリニック

²⁾ HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

子宮内膜菲薄化による難治性不妊に対して様々な治療が行われているが、有効な方法が確立されているとは言えない。血小板由来因子濃縮物凍結乾燥 (Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry:PFC-FD) は、多血小板血漿 (Platelet-Rich Plasma : PRP) に含まれる成長因子のみを濃縮乾燥させたもので、組織再生を促進する作用を有する。今回子宮内膜菲薄化のある反復着床不全症例を対象に、PFC-FD 療法を実施した症例の治療成績を後方視的に検討した。

【方法】

2021 年 6 月から 2024 年 2 月までの期間に、前回移植時に子宮内膜厚が 8mm 未満で、PFC-FD 療法の希望があった患者 20 例 (34 周期) を対象とした。移植前に PFC-FD を 2 回 (月経 10-12 日目、月経 12-14 日目) に分けて子宮内腔に投与し、移植時の子宮内膜厚および妊娠成績を検討した。

【結果】

患者の年齢は 31-49 歳 (平均 41.7 歳) であった。ホルモン補充周期が 31 周期、自然排卵周期が 3 周期であった。胚盤胞移植が 10 周期、分割期胚移植が 12 周期、2 段階胚移植が 12 周期であった。PFC-FD 投与日は全例子宮内膜厚 8mm 未満であったが、移植時に 8mm 以上に達したのは、28 周期/34 周期 (82%) であった。妊娠反応陽性は 14 周期/34 周期 (41%)、胎嚢が確認できた臨床妊娠は 7 周期/34 周期 (21%) であった (胚盤胞移植:4 周期、分割期胚移植:1 周期、2 段階胚移植:2 周期)。その後 3 例が出産に至り、3 例は初期流産した。1 例は現在妊娠継続中である。

【結論】

PFC-FD 子宮内腔投与は、子宮内膜厚を改善し、妊娠成績向上の一助となる可能性が示唆された。(580/600 字)